

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成20年11月13日

【四半期会計期間】 第6期第2四半期
(自平成20年7月1日至平成20年9月30日)

【会社名】 ナブテスコ株式会社

【英訳名】 Nabtesco Corporation

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 松本和幸

【本店の所在の場所】 東京都港区海岸一丁目9番18号

【電話番号】 03-3578-7070

【事務連絡者氏名】 総務部長 松尾 治

【最寄りの連絡場所】 東京都港区海岸一丁目9番18号

【電話番号】 03-3578-7070

【事務連絡者氏名】 総務部長 松尾 治

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

連結経営指標等

回次		第6期 第2四半期連結 累計期間	第6期 第2四半期連結 会計期間	第5期
会計期間		自 平成20年 4月1日 至 平成20年 9月30日	自 平成20年 7月1日 至 平成20年 9月30日	自 平成19年 4月1日 至 平成20年 3月31日
売上高	(百万円)	86,813	45,434	174,254
経常利益	(百万円)	8,932	4,174	20,061
四半期(当期)純利益	(百万円)	4,853	2,313	11,025
純資産額	(百万円)		85,878	82,492
総資産額	(百万円)		167,815	163,317
1株当たり純資産額	(円)		631.05	609.08
1株当たり四半期 (当期)純利益	(円)	38.19	18.21	86.77
潜在株式調整後 1株当たり四半期 (当期)純利益	(円)	38.18	18.20	86.74
自己資本比率	(%)		47.8	47.4
営業活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	9,320		18,249
投資活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	3,950		8,969
財務活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	1,394		5,748
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(百万円)		33,559	29,722
従業員数	(名)		3,995	3,884

(注) 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結会計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

3 【関係会社の状況】

当第2四半期連結会計期間において、重要な関係会社の異動はありません。

4 【従業員の状況】

(1) 連結会社における状況

平成20年9月30日現在

従業員数(名)	3,995
---------	-------

(注) 1 従業員数は、当社グループから当社グループ外への出向者を除き、当社グループ外から当社グループへの出向者を含む就業人員であります。

2 臨時従業員数は、従業員数の100分の10未満であるため記載を省略しています。

(2) 提出会社の状況

平成20年9月30日現在

従業員数(名)	2,250
---------	-------

(注) 1 従業員数は、当社から他社への出向者を除き、他社から当社への出向者を含む就業人員であります。

2 臨時従業員数は、従業員数の100分の10未満であるため記載を省略しています。

第2 【事業の状況】

1 【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当第2四半期連結会計期間における生産実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	生産高(百万円)
精密機器事業	8,083
輸送用機器事業	12,195
航空・油圧機器事業	14,462
産業用機器事業	8,694
合計	43,435

(注) 1 上記の金額は、販売価格によっており、消費税等は含まれていません。
2 上記の金額は、セグメント間取引の相殺除去後の数値であります。

(2) 受注実績

当第2四半期連結会計期間における受注実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	受注高(百万円)	受注残高(百万円)
精密機器事業	8,334	5,973
輸送用機器事業	12,389	20,370
航空・油圧機器事業	12,611	23,513
産業用機器事業	8,309	9,718
合計	41,645	59,575

(注) 1 上記の金額は、販売価格によっており、消費税等は含まれていません。
2 上記の金額は、セグメント間取引の相殺除去後の数値であります。

(3) 販売実績

当第2四半期連結会計期間における販売実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	販売高(百万円)
精密機器事業	8,771
輸送用機器事業	12,258
航空・油圧機器事業	15,001
産業用機器事業	9,403
合計	45,434

(注) 1 上記の金額は、販売価格によっており、消費税等は含まれていません。
2 上記の金額は、セグメント間取引の相殺除去後の数値であります。
3 総販売実績に対し10%以上に該当する販売先はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の締結、変更及び解約はありません。

3 【財政状態及び経営成績の分析】

(1) 経営成績の分析

当第2四半期連結会計期間における世界経済は、昨年発生したサブプライムローン問題が米国のみならず国際金融市場の混乱を招き、減速が明らかとなりました。

一方、わが国経済も、世界経済の減速に加え、株式・為替市場の変動及び原油・原材料価格の高騰などにより、景気は先行き不透明な状況で推移しました。

このような状況の中、当社グループの業績は以下のような結果となりました。

(売上高・営業利益)

当第2四半期連結会計期間の売上高は45,434百万円、営業利益は3,836百万円となり、売上高営業利益率は8.4%となりました。

(経常利益)

当第2四半期連結会計期間の経常利益は4,174百万円となりました。

持分法による投資利益を主とした営業外収益は466百万円、支払利息を主とした営業外費用は128百万円となりました。

(四半期純利益)

当第2四半期連結会計期間の四半期純利益は2,313百万円となりました。

特別利益は貸倒引当金戻入額等により23百万円、特別損失は投資有価証券評価損等により291百万円となりました。以上の結果、税金等調整前四半期純利益は3,906百万円となりました。

法人税等は1,207百万円、少数株主利益は連結子会社の増益により385百万円となりました。

事業の種類別セグメントの業績は、次のとおりです。

精密機器事業

精密機器事業の売上高は8,771百万円、営業利益は622百万円となりました。

精密減速機は自動車メーカーの設備投資に翳りが見られましたが、産業用ロボット向け及び工作機械向けの売上が伸長しました。営業利益は原材料価格高騰の影響と、一部の品質問題対応により低調に推移しました。

輸送用機器事業

輸送用機器事業の売上高は12,258百万円、営業利益は1,153百万円となりました。

鉄道車両関連機器は今年度が納入時期の谷間にあたるため低調に推移しました。また、自動車関連機器はほぼ横ばいで推移し、船用エンジン制御システムは順調に伸長しました。営業利益は一部の品質問題対応と、会計基準の変更によるたな卸資産の評価損等により低調に推移しました。

航空・油圧機器事業

航空・油圧機器事業の売上高は15,001百万円、営業利益は1,326百万円となりました。

油圧機器は中国をはじめとした新興国市場における建設機械の旺盛な需要と、風力発電の世界的な伸びに支えられました。航空機器は民間需要がほぼ横ばいに推移しましたが、防衛需要が低調に推移しました。営業利益は為替変動の影響を受けましたが、油圧機器の伸長により順調に推移しました。

産業用機器事業

産業用機器事業の売上高は9,403百万円、営業利益は734百万円となりました。

自動ドア関連分野は、国内市場の停滞により需要が減少しました。また、包装機械は売上が伸長しまし

たが、専用工作機は、自動車メーカーの設備投資の一部延期の影響を受け低調に推移しました。営業利益は自動ドア関連の競争激化に伴う採算悪化等により低調に推移しました。

所在地別セグメントの業績は、次のとおりであります。

日本

国内は、油圧機器を中心に売上を伸ばし、売上高は35,468百万円、営業利益は2,694百万円となりました。

アジア

アジアは、中国市場において建設機械向け油圧機器が好調に推移し、売上高は5,215百万円、営業利益は805百万円となりました。

北米

北米は、民間航空機業界向けの需要が中心となり、売上高は2,339百万円、営業利益は226百万円となりました。

ヨーロッパ

ヨーロッパは、主として産業用ロボット向け精密減速機が堅調に推移し、売上高は2,412百万円、営業利益は110百万円となりました。

(2) 財政状態の分析

(資産)

当第2四半期連結会計期間末の流動資産は102,734百万円、固定資産は65,081百万円であり、その結果、総資産は167,815百万円と前連結会計年度末比4,498百万円の増加となりました。主な増加要因は、現金及び現金同等物（現金及び預金、有価証券）の増加3,837百万円、設備投資による有形固定資産の増加933百万円であります。一方、主な減少要因は、投資有価証券の時価評価等による減少344百万円であります。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末の流動負債は60,179百万円、固定負債は21,757百万円であり、その結果、負債合計は81,937百万円と前連結会計年度末比1,112百万円の増加となりました。主な増加要因は、支払手形及び買掛金の増加1,153百万円、設備未払金等の増加による流動負債（その他）の増加1,757百万円であります。一方、主な減少要因は、法人税等の支払いによる未払法人税等の減少1,134百万円、定年退職者への退職金支給等による退職給付引当金の減少749百万円であります。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末の純資産合計は85,878百万円であり、自己資本は80,204百万円と前連結会計年度末比2,783百万円の増加となりました。主な増加要因は、累計四半期純利益4,853百万円による利益剰余金の増加であります。一方、主な減少要因は、配当による利益剰余金の減少1,016百万円、投資有価証券の時価評価等によるその他有価証券評価差額金の減少700百万円であります。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、営業活動により獲得した資金6,502百万円を主に設備投資及び配当金の支払等に充てた結果、第1四半期連結会計期間末に比べ4,525百万円増加し、33,559百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結会計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは、6,502百万円の資金の増加となりました。増加要因としては主に税金等調整前四半期純利益及びたな卸資産の減少等によるものであり、一方、減少要因としては主に売上債権の増加等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結会計期間における投資活動によるキャッシュ・フローは、2,052百万円の資金の減少となりました。これは主に有形固定資産の取得及び投資有価証券の取得等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結会計期間における財務活動によるキャッシュ・フローは、314百万円の資金の減少となりました。これは主に配当金の支払等によるものであります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結会計期間において、当社グループ(当社及び連結子会社)が対処すべき課題について、重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

なお、株式会社の支配に関する基本方針については、以下のとおり定めております。

(株式会社の支配に関する基本方針)

当社は、平成19年5月8日開催の取締役会において、当社の企業価値及び株主の皆さまの共同の利益を確保し、向上させることを目的として、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針を決定するとともに、平成19年6月26日開催の定時株主総会の承認を得て、この基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止するための取組みとしての当社株式の大規模買付行為に関する対応策(以下「本買収防衛策」といいます。)を導入しました。

基本方針の内容

当社グループは、航空機用機器、新幹線向けをはじめとする鉄道車両用機器、商用車用のブレーキ機器、産業用ロボット向けを主とした精密減速機、建設機械用油圧機器、自動ドア、船舶用遠隔操縦装置など「空・陸・海」をカバーする幅広いモーションコントロール製品を扱っており、これらを4つの事業セグメント(精密機器、輸送用機器、航空・油圧機器、産業用機器)に区分し運営しています。各事業はそれぞれが独自の市場を形成し、特定の用途市場において国内外で高いシェアの製品を有しているとともに、他社には見られない独特のシナジーを生み出しています。

また、当社グループのお客さまは、それぞれの業界において世界トップクラスの企業であります。そのお客様と築き上げてきた信頼関係も、当社グループにとっての企業価値の源泉であると認識しています。

当社グループが今後さらなる成長を遂げ企業価値向上を果たすためには、シナジーを最大化し、お客さまとの信頼関係をさらに強化していくことが必要であり、これらを実現するためには、個別最適、つまり各事業の独自性と、全体最適、つまり基盤技術・ノウハウ・人材の横断的かつ有機的な活用のバランスを取ることが必要不可欠であると考えています。

当社では、当社グループを構成する事業全体を十分に把握した上で、迅速かつ適正な意思決定が実行できるコーポレート・ガバナンスの体制を構築しています。

当社グループの企業価値の源泉が、以上で述べましたような当社グループが築き上げてきた経営資源に存することに鑑み、特定の者またはグループが、当社の総議決権の20%以上の議決権を有する株式を取得することにより、当社グループの企業価値または株主共同の利益が毀損されるおそれが存する場合には、かかる特定の者またはグループは、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者として不適切であるとして、法令及び定款によって許容される限度において当社グループの企業価値または株主共同の利益の確保・向上のための相当な措置を講じることを、当社が導入する敵対的買収防衛策に関する基本方針とします。

不適切な支配の防止のための取組み

当社グループは「ナブテスコは、独創的なモーションコントロール技術で、移動・生活空間に安全・安心・快適を提供します。」を企業理念に掲げ、平成26年度の当社グループの目指すべき姿として長期ビジョンを設定するとともに、その達成に向けた実行計画として平成20年5月に平成20年度から平成22年度の3カ年を対象とする中期経営計画「Global Challenge 2010」を策定しました。その達成のため全社一丸となって諸施策に取り組んでいきます。

また当社は、当社グループの持続的な価値の増大を目指すとともに、株主さまをはじめとするステークホルダーからさらに信頼される会社になるため、法令遵守はもとより、高い透明性と倫理観に基づく企業経営の実践に努めています。

当社は、当社グループの事業内容、事業特性に鑑み、意思決定の迅速化と業務執行責任の明確化を目的として執行役員制・カンパニー制を採用するとともに、これを統制する企業統治体制として取締役会、監査役(会)及び会計監査人を設置しており、業務執行、経営上の意思決定・監督、経営監視の機能を明確に区分しています。

さらに、業務執行上の重要事項を審議する機関として、マネジメント・コミッティを設置しています。マネジメント・コミッティには常勤監査役も出席し、重要な取締役会付議案件は事前に審議し論点を整理した上で取締役会に上程することで、取締役会における意思決定の適正化及び効率化を図っています。

これらの体制を整備、強化することにより、業務執行の敏速性及び機動性を維持しつつ、企業統治体制の強化と責任の明確化を図り、当社グループの企業価値向上に資する効率的かつ透明性の高い企業経営を実現します。

かかる取組みは当社の企業価値・株主共同の利益を確保・向上させるものであり、上記で述べた基本方針に沿うものであります。

本買収防衛策の内容

(本買収防衛策の概要)

本買収防衛策は、事前警告型買収防衛策であり、当社グループの企業価値及び株主の皆さまの共同の利益を確保・向上させることを目的として、当社の総議決権の20%以上の議決権を有する株式を取得するため大規模買付行為を行おうとする者(以下「大規模買付者」といいます。)に対し、1.事前に大規模買付行為に関する必要かつ十分な情報の提供を求め、2.大規模買付行為についての情報収集・検討等を行う時間を確保した上で、3.株主の皆さまへの当社経営陣の計画や代替案等の提示、及び大規模買付者との交渉を行っていくための手続を定めています。

(情報提供の要求)

大規模買付者には、当社取締役会が不要と判断した場合を除き、大規模買付行為の実行に先立ち、当社に対して、当社株主の皆様判断及び当社取締役としての意見形成のために必要かつ十分な情報(必要情報)、並びに大規模買付者が大規模買付行為に際して本買収防衛策に定める手続を遵守する旨の誓約文言等を記載した書面(意向表明書)を提出していただきます。

(取締役会評価期間の設定等)

当社取締役会は、大規模買付者が当社取締役会に対して必要情報及び意向表明書の提供を完了した後60営業日を当社取締役会による評価、検討、意見形成、代替案立案及び大規模買付者との交渉のための期間として設定します。大規模買付行為は、この期間の経過後にのみ開始させるべきものとします。

(独立委員会の設置と勧告手続)

当社は、取締役会から独立した組織として独立委員会を設置します。独立委員会は、以下に定めるところにより、当社取締役会に対して大規模買付行為に関する勧告を行うものとします。

ア．大規模買付者が本買収防衛策に定められた手続を遵守した場合

大規模買付者が本買収防衛策に定められた手続を遵守した場合には、独立委員会は、原則として、当社取締役会に対して、大規模買付行為に対する対抗措置の不発動を勧告します。ただし、本買収防衛策に定められた手続が遵守されている場合であっても、独立委員会は、大規模買付行為が当社グループの企業価値または株主の皆さまの共同の利益を著しく損なうと判断したときは、かかる大規模買付行為に対する対抗措置の発動を勧告します。

イ．大規模買付者が本買収防衛策に定められた手続を遵守しない場合

大規模買付者により、本買収防衛策に定める手続が遵守されない場合で、当社取締役会がその是正を書面により要請した後5営業日以内に是正がなされない場合には、独立委員会は、当社グループの企業価値または株主の皆さまの共同の利益の確保・向上のために対抗措置を発動させないことが必要であることが明白である場合、その他の特段の事情がある場合を除き、原則として、当社取締役会に対して、大規模買付行為に対する対抗措置の発動を勧告します。

(当社取締役会による決議)

当社取締役会は、独立委員会の勧告を最大限尊重したうえで、対抗措置の発動または不発動その他必要な決議を行うものとします。

(対抗措置の具体的な内容)

当社が本買収防衛策に基づき発動する大規模買付行為に対する対抗措置は、新株または新株予約権の無償割当て等、会社法その他の法令及び当社の定款が取締役会の権限として認める措置とします。

(本買収防衛策の有効期間)

本買収防衛策の有効期間は、平成19年6月26日開催の定時株主総会の終結の時から3年内に終了する事業年度のうち、最終のものに関する定時株主総会終結の時までとします。ただし、有効期間の満了前であっても、当社株主総会の決議または当社取締役会の決議によって本買収防衛策を廃止することができます。また当社は、当社取締役会において、本買収防衛策の有効期間中に独立委員会の承認を得た上で、本買収防衛策を修正し、または変更する場合があります。

本買収防衛策が基本方針に沿い、当社の企業価値ひいては株主の皆さまの共同の利益に合致し、当社の会社役員の地位の維持を目的とするものではないことについて

本買収防衛策は、経済産業省及び法務省が平成17年5月27日に公表した「企業価値・株主共同の利益の確保または向上のための買収防衛策に関する指針」の定める三原則(1.企業価値・株主共同の利益の確保・向上の原則、2.事前開示・株主意思の原則、3.必要性・相当性確保の原則)を充足しており、高度な合理性を有するものであります。

(企業価値・株主共同の利益の確保・向上)

本買収防衛策は、当社グループの企業価値及び株主の皆さまの共同の利益の確保・向上を目的としています。

(事前の開示)

当社は、平成19年5月8日に本買収防衛策について予め開示しており、今後も、法令及び関係のある証券取引所の規則に従って適時適切な開示を行います。

(株主意思の重視)

本買収防衛策の有効期間の満了前であっても、当社の株主総会において本買収防衛策の廃止が決定された場合には、その時点で本買収防衛策は廃止されることになり、その意味で本買収防衛策の消長は、株主の皆さまのご意思に基づくこととなっています。

また、本買収防衛策の有効期間の満了前であっても、当社の取締役会において廃止が決定された場合にも、その時点で本買収防衛策は廃止されることとなりますが、当社の取締役の任期は1年とされていますので、当社取締役の選任議案を通じて本買収防衛策の消長につき1年毎に株主の皆さまのご意思が反映されます。

(独立委員会の設置)

本買収防衛策の必要性及び相当性を確保し、経営者の保身のための濫用を防止するために、社外監査役及び社外有識者から構成される独立委員会を設置しています。当社取締役会が対抗措置を発動する場合には、その判断の公正を担保し、取締役会の恣意的な判断を排除するために、独立委員会の勧告を最大限尊重するものとしています。

(デッドハンド型買収防衛策またはスローハンド型買収防衛策ではないこと)

当社の株主総会または株主総会で選任された取締役会により、いつでも廃止することができるため、デッドハンド型買収防衛策(取締役会の構成員の過半数を交替させてもなお、発動を阻止できない買収防衛策)またはスローハンド型買収防衛策(取締役会の構成員の交替を一度に行うことができないため、発動を阻止するのに時間を要する買収防衛策)ではありません。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結会計期間の研究開発費の総額は1,118百万円であります。

第3 【設備の状況】

(1) 主要な設備の状況

当第2四半期連結会計期間において、主要な設備に重要な異動はありません。

(2) 設備の新設、除却等の計画

当第2四半期連結会計期間において、前四半期連結会計期間末に計画していた重要な設備の新設、除却等について、重要な変更はありません。

また、当第2四半期連結会計期間において、新たに確定した重要な設備の新設、除却等はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	400,000,000
計	400,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成20年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成20年11月13日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	127,212,607	127,212,607	東京証券取引所 市場第一部	(注)
計	127,212,607	127,212,607		

(注) 完全議決権株式であり、権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であります。

(2) 【新株予約権等の状況】

新株予約権

株主総会の特別決議日（平成16年6月24日）	
	第2四半期会計期間末現在 （平成20年9月30日）
新株予約権の数（個）	3
新株予約権のうち自己新株予約権の数	
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式
新株予約権の目的となる株式の数（株）	3,000
新株予約権の行使時の払込金額（円）	1株当たり 576
新株予約権の行使期間	自 平成18年9月14日 至 平成21年9月14日
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額（円）	発行価格 576 資本組入額 288
新株予約権の行使の条件	（注）
新株予約権の譲渡に関する事項	新株予約権を譲渡するときは、取締役会の承認を要する。
代用払込みに関する事項	
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	

（注） 新株予約権の行使の条件

新株予約権の割当を受けた者は、当社の取締役、執行役員、理事の地位を失った後も、これを行使することができる。

新株予約権の質入その他の担保提供は認められない。

新株予約権者が死亡した場合は、相続人がこれを承継するものとする。

その他権利行使の条件は、新株予約権発行の取締役会決議により、当社と新株予約権者との間で締結する「新株予約権割当契約書」に定めるところによる。

株主総会の特別決議日（平成17年6月24日）	
	第2四半期会計期間末現在 （平成20年9月30日）
新株予約権の数（個）	86
新株予約権のうち自己新株予約権の数	
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式
新株予約権の目的となる株式の数（株）	86,000
新株予約権の行使時の払込金額（円）	1株当たり 860
新株予約権の行使期間	自 平成19年8月10日 至 平成22年8月9日
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額（円）	発行価格 860 資本組入額 430
新株予約権の行使の条件	（注）
新株予約権の譲渡に関する事項	新株予約権を譲渡するときは、取締役会の承認を要する。
代用払込みに関する事項	
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	

（注） 新株予約権の行使の条件

新株予約権の割当を受けた者は、当社の取締役、執行役員、理事、理事待遇の地位を失った後も、これを行使することができる。

新株予約権の質入その他の担保提供は認められない。

新株予約権者が死亡した場合は、相続人がこれを承継するものとする。

その他権利行使の条件は、新株予約権発行の取締役会決議により、当社と新株予約権者との間で締結する「新株予約権割当契約書」に定めるところによる。

新株予約権付社債

2011年満期円貨建転換社債型新株予約権付社債（平成18年12月15日発行）	
	第2四半期会計期間末現在 （平成20年9月30日）
新株予約権付社債の残高（百万円）	11,000
新株予約権の数（個）	11,000
新株予約権のうち自己新株予約権の数	
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式
新株予約権の目的となる株式の数（株）	5,500,000
新株予約権の行使時の払込金額（円）	1株当たり 2,000
新株予約権の行使期間	自平成18年12月29日 至平成23年12月1日
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額（円）	発行価格 2,000 資本組入額 1,000
新株予約権の行使の条件	各本新株予約権の一部行使はできないものとする。
新株予約権の譲渡に関する事項	特になし
代用払込みに関する事項	(注)
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	

(注) 本新株予約権付社債の社債権者が本新株予約権を行使したときは、本社債の償還に代えて本新株予約権の行使に際して払込をなすべき額を払込とする請求があったものとみなす。

(3) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成20年9月30日		127,212		10,000		24,690

(5) 【大株主の状況】

平成20年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
株式会社神戸製鋼所	神戸市中央区脇浜町二丁目10-26	15,100	11.87
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	東京都中央区晴海一丁目8-11	11,282	8.87
タイヨウ ファンド・エル・ピー (常任代理人) 香港上海銀行 東京支店	1208 ORANGE STREET WILMINGTON, DELAWARE 東京都中央区日本橋三丁目11-1	9,418	7.40
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	東京都港区浜松町二丁目11-3	8,998	7.07
帝人株式会社	大阪市中央区南本町一丁目6-7	6,935	5.45
バンク オブ ニューヨーク ジーシー ム クライアント アカウント ジェ イピーアールデイ アイエスジー エ フイー エイシー (常任代理人) 株式会社三菱東京UFJ銀行	PETERBOROUGH COURT 133 FLEET STREET LONDON EC4A 2BB UNITED KINGDOM 東京都千代田区丸の内二丁目7-1	4,228	3.32
ザ チェース マンハッタン バンク エヌエイ ロンドン エス エル オム ニバス アカウト (常任代理人) 株式会社みずほコーポレート銀行	WOOLGATE HOUSE, COLEMAN STREET LONDON EC2P 2HD, ENGLAND 東京都中央区日本橋兜町6-7	3,629	2.85
株式会社ハーモニック・ドライブ・ システムズ	東京都品川区南大井六丁目25-3	3,265	2.57
資産管理サービス信託銀行株式会社	東京都中央区晴海一丁目8-12	2,606	2.05
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー (常任代理人) 株式会社みずほコーポレート銀行	P.O. BOX 351 BOSTON MASSACHUSETTS 02101 U.S.A. 東京都中央区日本橋兜町6-7	2,411	1.90
計		67,874	53.35

(注) 1 上記所有株式数のうち、信託業務に係る株式数は次のとおりであり、信託設定ごとに名義区分されていたものを合計して、実質主義での記載をしています。

1) 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社

信託口名	所有株式数(千株)
(信託口)	7,865
(信託口4G)	3,058
(信託口4)	295
(三井アセット信託銀行再信託分・山陽)	64
合計	11,282

2) 日本マスタートラスト信託銀行株式会社

信託口名	所有株式数(千株)
(信託口)	4,987
(退職給付信託口・株式会社神戸製鋼所口)	4,011
合計	8,998

3) 資産管理サービス信託銀行株式会社

信託口名	所有株式数(千株)
(年金信託口)	187
(信託B口)	373
(年金特金口)	897
(信託A口)	153
(証券投資信託口)	864
(有価証券信託1口)	132
合計	2,606

- 2 次の法人から、平成20年6月20日に5社連名による10,774千株の大量保有報告書が提出されていますが、当第2四半期会計期間末現在における当該法人名義の実質所有株式数の確認ができないため、上記「大株主の状況」に含めていません。

- 1) キャピタル・リサーチ・アンド・マネージメント・カンパニー
- 2) キャピタル・ガーディアン・トラスト・カンパニー
- 3) キャピタル・インターナショナル・リミテッド
- 4) キャピタル・インターナショナル・インク
- 5) キャピタル・インターナショナル・エス・エイ

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成20年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 109,000 (相互保有株式) 普通株式 20,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 125,714,000	125,714	
単元未満株式	普通株式 1,369,607		1単元(1,000株)未満の株式
発行済株式総数	127,212,607		
総株主の議決権		125,714	

(注) 1 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が5,000株含まれています。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数5個が含まれています。

- 2 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式 978株が含まれており、また相互保有株式が次のとおり含まれています。

旭光電機株式会社	66株
大力鉄工株式会社	580株
ナブコシステム株式会社	393株

【自己株式等】

平成20年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) ナブテスコ株式会社	東京都港区 海岸一丁目9 - 18	109,000		109,000	0.09
(相互保有株式) 旭光電機株式会社	神戸市中央区 元町通五丁目7 - 20	15,000		15,000	0.01
(相互保有株式) 大力鉄工株式会社	神戸市東灘区 田中町四丁目9 - 2	5,000		5,000	0.00
計		129,000		129,000	0.10

2 【株価の推移】

【当該四半期累計期間における月別最高・最低株価】

月別	平成20年 4月	5月	6月	7月	8月	9月
最高(円)	1,589	1,600	1,693	1,600	1,246	1,137
最低(円)	1,386	1,367	1,554	1,198	1,098	804

(注) 株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

3 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期報告書提出日までの役員の異動はありません。

第5 【経理の状況】

1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年 内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しています。

なお、当第2四半期連結会計期間(平成20年7月1日から平成20年9月30日まで)及び当第2四半期連結累計期間(平成20年4月1日から平成20年9月30日まで)は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(平成20年8月7日 内閣府令第50号)附則第7条第1項第5号ただし書きにより、改正後の四半期連結財務諸表規則を早期に適用しています。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当第2四半期連結会計期間(平成20年7月1日から平成20年9月30日まで)及び当第2四半期連結累計期間(平成20年4月1日から平成20年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、あずさ監査法人により四半期レビューを受けています。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成20年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	11,467	11,131
受取手形及び売掛金	46,511	46,641
有価証券	22,500	19,000
商品及び製品	3,536	4,907
仕掛品	6,805	5,580
原材料及び貯蔵品	8,069	7,934
その他	3,953	4,179
貸倒引当金	110	137
流動資産合計	102,734	99,237
固定資産		
有形固定資産	1 44,279	1 43,346
無形固定資産	1,546	1,382
投資その他の資産		
投資有価証券	16,329	16,674
その他	3,127	2,894
貸倒引当金	201	217
投資その他の資産合計	19,255	19,350
固定資産合計	65,081	64,079
資産合計	167,815	163,317
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	32,615	31,462
短期借入金	8,783	9,110
1年内返済予定の長期借入金	3,000	3,004
未払法人税等	2,081	3,215
引当金	1,893	1,341
その他	11,806	10,048
流動負債合計	60,179	58,182
固定負債		
社債	11,000	11,000
退職給付引当金	9,755	10,504
引当金	211	286
負ののれん	253	289
その他	537	561
固定負債合計	21,757	22,642
負債合計	81,937	80,824

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成20年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,000	10,000
資本剰余金	17,489	17,500
利益剰余金	51,240	47,412
自己株式	156	135
株主資本合計	78,573	74,777
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	1,488	2,189
繰延ヘッジ損益	6	6
為替換算調整勘定	134	446
評価・換算差額等合計	1,630	2,642
少数株主持分	5,674	5,071
純資産合計	85,878	82,492
負債純資産合計	167,815	163,317

(2) 【四半期連結損益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	当第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)
売上高	86,813
売上原価	67,440
売上総利益	19,373
販売費及び一般管理費	11,171
営業利益	8,201
営業外収益	
受取利息	34
受取配当金	176
受取賃貸料	132
持分法による投資利益	422
その他	226
営業外収益合計	991
営業外費用	
支払利息	86
たな卸資産処分損	49
為替差損	42
その他	82
営業外費用合計	261
経常利益	8,932
特別利益	
固定資産売却益	39
貸倒引当金戻入額	34
特別利益合計	73
特別損失	
固定資産処分損	121
投資有価証券評価損	201
ゴルフ会員権評価損	2
関係会社整理損	322
債務保証損失引当金繰入額	6
特別損失合計	652
税金等調整前四半期純利益	8,354
法人税等	2,853
少数株主利益	646
四半期純利益	4,853

【第2四半期連結会計期間】

(単位：百万円)

当第2四半期連結会計期間 (自平成20年7月1日 至平成20年9月30日)	
売上高	45,434
売上原価	35,909
売上総利益	9,525
販売費及び一般管理費	1 5,689
営業利益	3,836
営業外収益	
受取利息	19
受取配当金	75
受取賃貸料	64
持分法による投資利益	204
その他	102
営業外収益合計	466
営業外費用	
支払利息	42
たな卸資産処分損	24
為替差損	17
その他	44
営業外費用合計	128
経常利益	4,174
特別利益	
固定資産売却益	6
貸倒引当金戻入額	16
特別利益合計	23
特別損失	
固定資産処分損	84
投資有価証券評価損	201
債務保証損失引当金繰入額	6
特別損失合計	291
税金等調整前四半期純利益	3,906
法人税等	1,207
少数株主利益	385
四半期純利益	2,313

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

当第2四半期連結累計期間
(自平成20年4月1日
至平成20年9月30日)

営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純利益	8,354
減価償却費	2,647
のれん償却額	36
貸倒引当金の増減額(は減少)	41
退職給付引当金の増減額(は減少)	746
受取利息及び受取配当金	275
支払利息	86
持分法による投資損益(は益)	422
固定資産売却損益(は益)	39
固定資産処分損益(は益)	121
投資有価証券評価損益(は益)	201
ゴルフ会員権評価損	2
関係会社整理損	322
売上債権の増減額(は増加)	29
たな卸資産の増減額(は増加)	134
仕入債務の増減額(は減少)	1,185
その他	1,557
小計	12,810
利息及び配当金の受取額	349
利息の支払額	89
法人税等の支払額	3,749
営業活動によるキャッシュ・フロー	9,320
投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	3,013
有形固定資産の売却による収入	71
無形固定資産の取得による支出	357
投資有価証券の取得による支出	706
その他	54
投資活動によるキャッシュ・フロー	3,950
財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入金の純増減額(は減少)	324
長期借入金の返済による支出	4
少数株主からの払込みによる収入	398
自己株式の取得による支出	60
自己株式の売却による収入	28
配当金の支払額	1,016
少数株主への配当金の支払額	415
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,394
現金及び現金同等物に係る換算差額	137
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	3,837
現金及び現金同等物の期首残高	29,722
現金及び現金同等物の四半期末残高	33,559

【四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更】

当第2四半期連結累計期間
(自平成20年4月1日
至平成20年9月30日)

1 会計処理の原則及び手続の変更

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法の変更
(たな卸資産)

第1四半期連結会計期間より「棚卸資産の評価に関する会計基準」(企業会計基準第9号 平成18年7月5日)を適用しています。これにより、従来の方法によった場合に比べ、当第2四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益は、それぞれ151百万円減少しています。

なお、セグメント情報に与える影響については、当該箇所に記載しています。

(2) 在外子会社の会計処理に関する当面の取扱い

第1四半期連結会計期間より「連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱い」(実務対応報告第18号 平成18年5月17日)を適用しています。これによる損益への影響はありません。

(3) リース取引に関する会計基準の適用

第1四半期連結会計期間より「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準第13号 最終改正 平成19年3月30日)及び「リース取引に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第16号 最終改正 平成19年3月30日)を早期に適用し、所有権移転外ファイナンス・リース取引については、従来の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理から通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理に変更しています。また、所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産の減価償却の方法については、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっています。これによる損益への影響はありません。

なお、リース取引開始日が適用初年度前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を引続き採用しています。

【簡便な会計処理】

当第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)
(棚卸資産の評価方法) 当第2四半期連結会計期間末における棚卸高は、 前連結会計年度末の实地棚卸高を基礎として、合理的な方法により算定しています。

【四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理】

当第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)
(税金費用の計算) 税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しています。なお、法人税等調整額は法人税等に含めて表示しています。

【追加情報】

当第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)
(固定資産の耐用年数の変更) 当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正を契機に見直しを行い、第1四半期連結会計期間より機械装置の耐用年数を変更しています。これにより、従来の方法によった場合と比べ、当第2四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益が42百万円それぞれ増加しています。 なお、セグメント情報に与える影響については、当該箇所に記載しています。
(債務保証損失引当金) 当第2四半期連結会計期間より、関係会社の借入金に対する債務保証損失の発生の可能性が高まったことから、損失見込額を計上しています。これにより、従来の方法によった場合と比べ、当第2四半期連結累計期間の税金等調整前四半期純利益が6百万円減少しています。 なお、債務保証損失引当金については、固定負債の引当金に含めて表示しています。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

当第2四半期連結会計期間末 (平成20年9月30日)	前連結会計年度末 (平成20年3月31日)
1 有形固定資産の減価償却累計額 75,440百万円	1 有形固定資産の減価償却累計額 74,962百万円
2 保証債務等	2 保証債務等
(1) 連結会社以外の会社の金融機関からの借入金に対し、債務保証を行っています。 株高東電子 6百万円	(1) 連結会社以外の会社の金融機関からの借入金に対し、債務保証を行っています。 株高東電子 13百万円
(2) 連結会社以外の会社の金融機関のリース債務の保証に対し、経営指導念書の差入れを行っています。 Harmonic Drive L.L.C. 32百万円 (312千米ドル)	(2) 連結会社以外の会社の金融機関のリース債務の保証に対し、経営指導念書の差入れを行っています。 Harmonic Drive L.L.C. 39百万円 (394千米ドル)

(四半期連結損益計算書関係)

第2四半期連結累計期間

当第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)	
1 販売費及び一般管理費の主なもの	
給与賃金	2,719百万円
賞与	1,054 "
退職給付費用	268 "
役員退職慰労引当金繰入額	43 "
研究開発費	1,949 "
旅費交通費	670 "

第2四半期連結会計期間

当第2四半期連結会計期間 (自平成20年7月1日 至平成20年9月30日)	
1 販売費及び一般管理費の主なもの	
給与賃金	1,365百万円
賞与	547 "
退職給付費用	47 "
役員退職慰労引当金繰入額	22 "
研究開発費	1,067 "
旅費交通費	356 "

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)	
1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係	(平成20年9月30日現在)
現金及び預金	11,467百万円
有価証券	22,500 "
計	33,967百万円
預入期間が3か月超の定期預金	407 "
現金及び現金同等物	33,559百万円

(株主資本等関係)

当第2四半期連結会計期間末(平成20年9月30日)及び当第2四半期連結累計期間(自平成20年4月1日至平成20年9月30日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当第2四半期 連結会計期間末
普通株式(株)	127,212,607

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当第2四半期 連結会計期間末
普通株式(株)	117,198

3 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成20年6月24日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	1,016	8	平成20年3月31日	平成20年6月25日

(2) 基準日が当連結会計年度の開始の日から当第2四半期連結累計期間末までに属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成20年10月31日 取締役会	普通株式	利益剰余金	1,143	9	平成20年9月30日	平成20年12月8日

4 株主資本の著しい変動に関する事項

該当事項はありません。

(リース取引関係)

通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっている所有権移転外ファイナンス・リース取引は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動がありません。

(有価証券関係)

有価証券の四半期連結貸借対照表計上額その他の金額は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動がありません。

(デリバティブ取引関係)

デリバティブ取引の四半期連結会計期間末の契約額等は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動がありません。

(セグメント情報)

【事業の種類別セグメント情報】

当第2四半期連結会計期間(自平成20年7月1日至平成20年9月30日)

	精密 機器事業 (百万円)	輸送用 機器事業 (百万円)	航空・油圧 機器事業 (百万円)	産業用 機器事業 (百万円)	計 (百万円)	消去 又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高							
(1) 外部顧客に対する 売上高	8,771	12,258	15,001	9,403	45,434		45,434
(2) セグメント間の 内部売上高又は振替高	12	61	183	82	339	(339)	
計	8,783	12,320	15,185	9,485	45,774	(339)	45,434
営業利益	622	1,153	1,326	734	3,836		3,836

当第2四半期連結累計期間(自平成20年4月1日至平成20年9月30日)

	精密 機器事業 (百万円)	輸送用 機器事業 (百万円)	航空・油圧 機器事業 (百万円)	産業用 機器事業 (百万円)	計 (百万円)	消去 又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高							
(1) 外部顧客に対する 売上高	16,390	24,326	30,258	15,839	86,813		86,813
(2) セグメント間の 内部売上高又は振替高	23	121	378	162	685	(685)	
計	16,413	24,447	30,636	16,001	87,499	(685)	86,813
営業利益	2,081	2,350	2,797	972	8,201		8,201

(注) 1 事業区分は、内部管理上採用している区分によっています。

2 各事業の主な製品

- (1) 精密機器事業.....精密減速機、精密アクチュエーター、三次元光造形装置、真空ポンプ・真空装置、高性能熱制御デバイス
- (2) 輸送用機器事業.....鉄道車両用ブレーキ装置、鉄道車両用自動扉装置、自動車用エアブレーキ装置、船用主推進機制御装置
- (3) 航空・油圧機器事業...航空機用機器、減速機付油圧モーター、風力発電機用駆動装置
- (4) 産業用機器事業.....建物用自動扉装置、自動充填包装機械、鍛圧機械、工作機械

3 (会計方針の変更)

「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」1.(1)に記載のとおり、第1四半期連結会計期間より「棚卸資産の評価に関する会計基準」(企業会計基準第9号)を適用しています。これにより、従来の方によった場合と比べ、当第2四半期連結累計期間の営業利益が「精密機器事業」は15百万円、「輸送用機器事業」は100百万円、「航空・油圧機器事業」は15百万円、「産業用機器事業」は20百万円それぞれ減少しています。

4 (追加情報)

「追加情報」に記載のとおり、当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正を契機として、第1四半期連結会計期間より機械装置の耐用年数を変更しています。これにより、従来の方によった場合と比べ、当第2四半期連結累計期間の営業利益が「精密機器事業」は41百万円増加し、「輸送用機器事業」は29百万円減少し、「航空・油圧機器事業」は34百万円増加し、「産業用機器事業」は3百万円減少しています。

【所在地別セグメント情報】

当第2四半期連結会計期間(自平成20年7月1日至平成20年9月30日)

	日本 (百万円)	アジア (百万円)	北米 (百万円)	ヨーロッパ (百万円)	計 (百万円)	消去 又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高							
(1) 外部顧客に対する 売上高	35,468	5,215	2,339	2,412	45,434		45,434
(2) セグメント間の 内部売上高又は振替高	4,539	648	504	16	5,708	(5,708)	
計	40,007	5,863	2,843	2,428	51,143	(5,708)	45,434
営業利益	2,694	805	226	110	3,836		3,836

当第2四半期連結累計期間(自平成20年4月1日至平成20年9月30日)

	日本 (百万円)	アジア (百万円)	北米 (百万円)	ヨーロッパ (百万円)	計 (百万円)	消去 又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高							
(1) 外部顧客に対する 売上高	67,477	10,367	4,883	4,085	86,813		86,813
(2) セグメント間の 内部売上高又は振替高	9,284	1,154	940	37	11,416	(11,416)	
計	76,762	11,522	5,823	4,122	98,230	(11,416)	86,813
営業利益	5,894	1,706	398	202	8,201		8,201

- (注) 1 国又は地域の区分は、地理的近接度によっています。
2 本邦以外の区分に属する主な国又は地域
(1) アジア.....中国、タイ、韓国、シンガポール
(2) 北米.....アメリカ
(3) ヨーロッパ.....ドイツ、オランダ
3 (会計方針の変更)
「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」1.(1)に記載のとおり、第1四半期連結会計期間より「棚卸資産の評価に関する会計基準」(企業会計基準第9号)を適用しています。これにより、従来の方法によった場合と比べ、当第2四半期連結累計期間の営業利益は「日本」において151百万円減少しています。
4 (追加情報)
「追加情報」に記載のとおり、当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正を契機として、第1四半期連結会計期間より機械装置の耐用年数を変更しています。これにより、従来の方法によった場合と比べ、当第2四半期連結累計期間の営業利益は「日本」において42百万円増加しています。

【海外売上高】

当第2四半期連結会計期間(自平成20年7月1日至平成20年9月30日)

	アジア	北米	ヨーロッパ	その他の地域	計
海外売上高(百万円)	7,767	3,031	2,859	165	13,825
連結売上高(百万円)					45,434
連結売上高に占める 海外売上高の割合(%)	17.1	6.7	6.3	0.3	30.4

当第2四半期連結累計期間(自平成20年4月1日至平成20年9月30日)

	アジア	北米	ヨーロッパ	その他の地域	計
海外売上高(百万円)	15,189	5,954	5,023	285	26,452
連結売上高(百万円)					86,813
連結売上高に占める 海外売上高の割合(%)	17.5	6.9	5.8	0.3	30.5

- (注) 1 国又は地域の区分は、地理的近接度によっています。
 2 本邦以外の区分に属する主な国又は地域
 (1) アジア.....中国、タイ、韓国、インド、シンガポール
 (2) 北米.....アメリカ
 (3) ヨーロッパ.....ドイツ、イギリス、フランス、イタリア、オランダ
 (4) その他の地域.....オーストラリア、ニュージーランド
 3 海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高であります。

(1株当たり情報)

1 1株当たり純資産額

当第2四半期連結会計期間末 (平成20年9月30日)		前連結会計年度末 (平成20年3月31日)	
1株当たり純資産額	631.05円	1株当たり純資産額	609.08円

(注) 1株当たり純資産額の算定上の基礎

当第2四半期連結会計期間末 (平成20年9月30日)		前連結会計年度末 (平成20年3月31日)	
純資産の部の合計額	85,878百万円	純資産の部の合計額	82,492百万円
普通株式に係る純資産額	80,204百万円	普通株式に係る純資産額	77,420百万円
(差異の主な内訳)		(差異の主な内訳)	
少数株主持分	5,674百万円	少数株主持分	5,071百万円
普通株式の発行済株式数	127,212,607株	普通株式の発行済株式数	127,212,607株
普通株式の自己株式数	117,198株	普通株式の自己株式数	102,471株
1株当たり純資産額の算定に 用いられた普通株式の数	127,095,409株	1株当たり純資産額の算定に 用いられた普通株式の数	127,110,136株

2 1株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益

第2四半期連結累計期間

当第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)	
1株当たり四半期純利益	38.19円
潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	38.18円

(注) 1株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の算定上の基礎

当第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)	
四半期連結損益計算書上の 四半期純利益	4,853百万円
普通株式に係る四半期純利益	4,853百万円
普通株式の期中平均株式数	127,102,773株
(潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の算定に 用いられた普通株式増加数の主要な内訳)	
新株予約権	16,873株
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり 四半期純利益の算定に含まれなかった潜在株式につい て、前連結会計年度末から重要な変動がある場合の概要	

第2 四半期連結会計期間

当第2 四半期連結会計期間 (自 平成20年7月1日 至 平成20年9月30日)	
1株当たり四半期純利益	18.21円
潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	18.20円

(注) 1株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の算定上の基礎

当第2 四半期連結会計期間 (自 平成20年7月1日 至 平成20年9月30日)	
四半期連結損益計算書上の 四半期純利益	2,313百万円
普通株式に係る四半期純利益	2,313百万円
普通株式の期中平均株式数	127,098,613株
(潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の算定に 用いられた普通株式増加数の主要な内訳)	
新株予約権	16,873株
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり 四半期純利益の算定に含まれなかった潜在株式につい て、前連結会計年度末から重要な変動がある場合の概要	

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

第6期(平成20年4月1日から平成21年3月31日まで)中間配当については、平成20年10月31日開催の取締役会において、平成20年9月30日現在の最終の株主名簿及び実質株主名簿に記載又は記録された株主又は登録質権者に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議しました。

中間配当金の総額	1,143百万円
1株当たり中間配当金	9円
支払請求権の効力発生日及び支払開始日	平成20年12月8日

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成20年11月12日

ナブテスコ株式会社
取締役会 御中

あずさ監査法人

指定社員
業務執行役員 公認会計士 米 林 彰

指定社員
業務執行社員 公認会計士 穴 戸 通 孝

指定社員
業務執行社員 公認会計士 原 田 大 輔

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているナブテスコ株式会社の平成20年4月1日から平成21年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(平成20年7月1日から平成20年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成20年4月1日から平成20年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、ナブテスコ株式会社及び連結子会社の平成20年9月30日現在の財政状態、同日をもって終了する第2四半期連結会計期間及び第2四半期連結累計期間の経営成績並びに第2四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
- (注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。